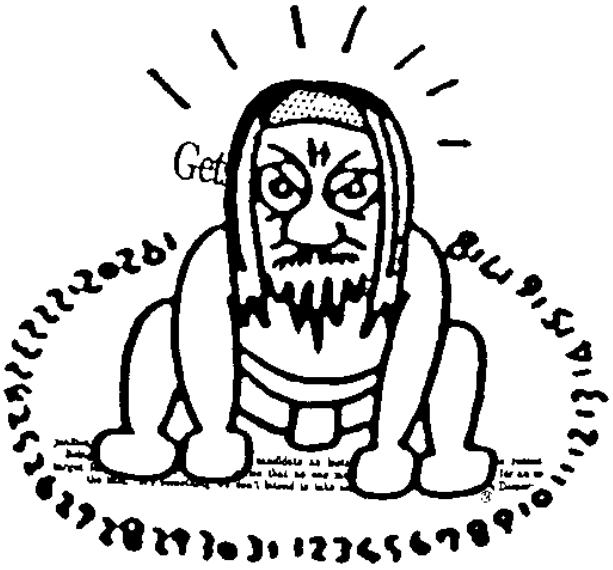
⑮・教育書



日本の理数教育があぶない

編者：松田 良一，正木 春彦

秋山 仁（分担執筆：165-178 ページ）

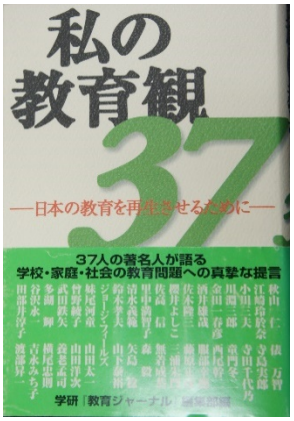
監修者：高等教育フォーラム

出版年： 1998 年

発行所： 学会センター関西

総頁数： 352 ページ

解説：いま理科系学生に異変が起きている！医学や生命科学を志す学生の中に高校で生物を学んでない者がいる！理工系の学生の中に高校で物理を学んでない者がいる！その原因は平成 6 年度の高校入学者から新カリキュラムが施行され、「理科 4 領域 13 科目のうち 2 領域 2 科目以上選択させる―残り 2 領域は全く履修しなくても良い」ようになったことにある。(“はじめに”より抜粋)



私の教育観

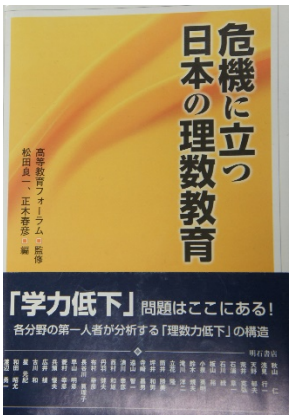
学研『教育ジャーナル』編集部編

出版年： 2000 年

発行所： 学習研究社

頁数： 399 ページ

解説：―日本の教育を再生させるために―
秋山仁、江崎玲於奈、金田一晴彦、俵万智など 37 人が第一章「学校教育」、第二章「家庭教育」、第三章「社会教育」で教育観を語っている。



危機に立つ日本の理数教育

監修者：高等教育フォーラム

編　者：松田良一

出版年： 2005 年

発行所： 明石書店

頁数： 346 ページ

解説：「学力低下」問題はここにある!
各分野の第一人者が分析する「理数力低下」の構造。
1999 年 12 月に開催された「高等教育フォーラム」のシンポジウムの講演記録をもとに、秋山仁、布村幸彦、立花隆、菱村幸彦ほか 33 名の各講演者に執筆いただいた原稿をまとめたものです。

秋山仁の　教育羅針盤

著者： 秋山 仁

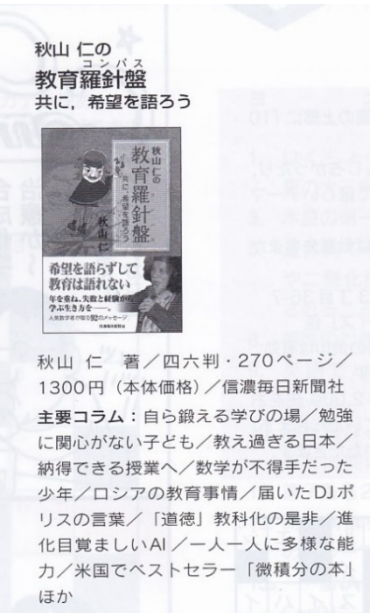
出版年： 2017 年

発行所： 信濃毎日新聞社

総頁数： 267 ページ

解説：信濃毎日新聞社の教育リレーコラム「コンパス」に 2005 年 5 月から連載を始めた記事がまとめられ書籍化された。教育の問題は決して学校の中だけの問題ではない。社会的な出来事の背後に目を向けると教育に起因している問題がほとんどなのである。一般に日本では多くの人が「学力」とは偏差値の高い学校に合格するための、受け身型、知識注入型の受験学力程度にしか考えていない。しかしそれがこれからの時代を生きる若者たちの知的能力を培っているとは思えない。単なる受験対策のための勉強ではなく、どういう学びをし、どういう知的能力を育んでゆくべきか私見を述べ、それが読者の方々が考える契機になればと思う。各回批判だけに留まらず、羅針盤を意識してささやかながらも提言を付すように努めてきた。人間の教育観にはその人の幸福観が如実に反映される。すなわち希望を語らずして教育は語れない。本書を手に取っていただいた方々と一緒に、教育と子供たちの未来について考えたい。

【書評】現代化学　2017 年 10 月号　PICK　UP


秋山 仁の
教育羅針盤（コンパス）
共に，希望を語ろう

秋山 仁　著／四六判・270ページ／1300円（本体価格）／信濃毎日新聞社

主要コラム：自ら鍛える学びの場／勉強に関心がない子ども／教え過ぎる日本／納得できる授業へ／数学が不得手だった少年／ロシアの教育事情／届いたDJポリスの言葉／「道徳」教科化の是非／進化目覚ましいAI／一人一人に多様な能力／米国でベストセラー「微積分の本」ほか

【書評】信濃毎日新聞　2017 年 6 月 27 日

数学者・秋山仁さん
教育の「羅針盤」12年分
本紙コラムまとめた本 出版

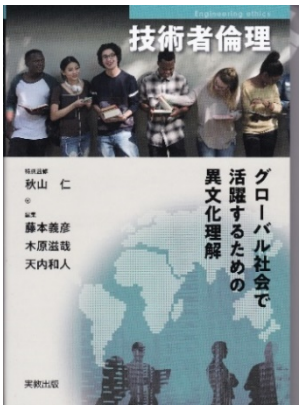
信濃毎日新聞教育面のコラム「コンパス」の筆者の一人で数学者の秋山仁さん(70)＝東京都渋谷区＝が、自身の担当分をまとめた単行本「秋山仁の教育羅針盤（コンパス）」共に、希望を語ろう」を信濃毎日新聞社から出版した。執筆を始めた2005年5月から今年5月までの92回分を加筆、修正して収録。秋山さんは「教育は子どもよりも大人の問題。家庭や学校で論じ合う題材にしてもらえればうれしい」と話している。

本紙掲載のコラム「コンパス」の記事を単行本にまとめた秋山さん

その時々に起きた事件・事故、趣味のアコーディオン演奏など硬軟の話題を取り上げつつ、教育観をつづってきた。単行本化に際して全て読み返し、「いじめや暴力の問題などが何度も繰り返して起きていることに途方に暮れてしまった」と言う。

スマートフォンの登場やグローバル化といったこの12年間の動きを例に「時の流れを見据え、学校で学ぶ内容を変えていく必要がある」「世界を変えるようなアイデアを出せる人を育成しないといけない」と指摘。「数学の統計はデータの蓄積によって信頼性が増す。コラムも続けることに意義がある」とし、「科学者の観察眼で物事を見極めていきたい」と今後への意欲を語った。

268ページ、1300円（税抜き）。県内の新聞販売店や書店で扱っている。



技術者論理
グローバル社会で活躍するための異文化理解

監修：秋山仁、森野数博

編集：藤本義彦、木原滋哉、天内和人

出版年： 2018 年

発行所： 実教出版株式会社

総頁数： 222 ページ

解説：現代社会はヒト・モノ・カネ・情報が国境の枠を超えて行き交うようになり、地球を一つの単位とするグローバルな社会が形成されている。そして技術者も世界で活躍できるグローバル・エンジニアになることを求められている 。本書は 4 部構成である。

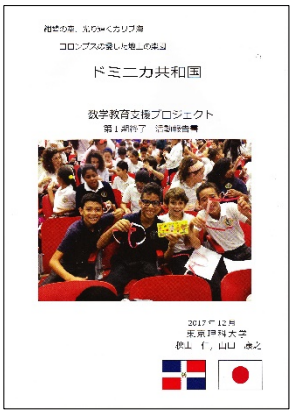
第 1 部ではグローバル社会の中で異文化理解を踏まえたコミュニケーション力のスキルの向上について。

第 2 部では世界の各地域の歴史的文化的背景の理解と異なる文化や風習の壁を乗り越えた人間関係を構築する態度の形成について。

3 部ではグローバル・エンジニアが持つべき職業意識や倫理、法の知識の理解について。

4 部ではグローバル社会に関する知識と理解をさらに深めグローバル社会における課題をグローバル・エンジニアとして市民として解決できる能力の向上について。

本書はグローバル・エンジニアを目指す方々にとって次の一歩を進める上で大きな助けとなるであろう。本書を手に取った技術者の方々が実り多い人生を手にされることを願って止まない 。



ドミニカ共和国

数学教育支援プロジェクト　第Ⅰ期終了活動報告書

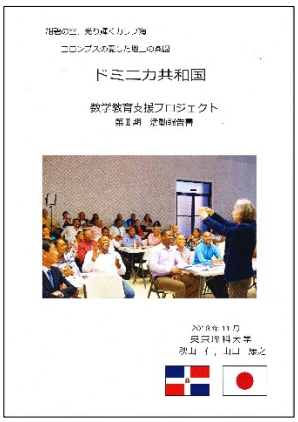
著者： 東京理科大学　秋山 仁，山口康之

出版年： 2017 年

発行所： 東京理科大学理数教育研究センター　秋山研究室

総頁数： 73 ページ

解説：1492 年にコロンブスによって発見された島がドミニカ共和国である。この国はカリブ海に浮かぶ南国の楽園である。2017 年から 3 年計画でこの国の子供たちに算数や数学の面白さや有用性を伝える数学プロジェクトが始まった。ドミニカでは 2016 年にダニロ・メディーナ大統領が再選され、人材育成・教育改革・教員の資質向上等を重点に置いた政策をあげた。その折、駐ドミニカ日本国大使牧内博幸氏が、科学技術の振興によって国を発展させてきた実績のある日本は理数系教育を要とした人材育成に関し何か貢献できるのではないかと考えられた。これが今回の数学プロジェクトの始まりである 。本書はその数学教育支援プロジェクトの第 I 期（2017 年度）の活動報告書である。



ドミニカ共和国

数学教育支援プロジェクト　第 II 期活動報告書

著者： 東京理科大学　秋山 仁，山口康之

出版年： 2018 年

発行所： 東京理科大学理数教育研究センター　秋山研究室

総頁数： 62 ページ

解説：1492 年にコロンブスによって発見された島がドミニカ共和国である。この国はカリブ海に浮かぶ南国の楽園である。2017 年から 3 年計画でこの国の子供たちに算数や数学の面白さや有用性を伝える数学プロジェクトが始まった。ドミニカでは 2016 年にダニロ・メディーナ大統領が再選され、人材育成・教育改革・教員の資質向上等を重点に置いた政策をあげた。その折、駐ドミニカ日本国大使牧内博幸氏が、科学技術の振興によって国を発展させてきた実績のある日本は理数系教育を要とした人材育成に関し何か貢献できるのではないかと考えられた。これが今回の数学プロジェクトの始まりである 。本書はその数学教育支援プロジェクトの第 II 期（2018 年度）の活動報告書である。